寄稿・美術館・博物館

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

◎ 美術館情報

1. 大阪市立東洋陶磁美術館 【大阪・北区】(https://www.moco.or.jp/exhibition/schedule/?e=642)

12 月 13 日(土)～令和 8 年 3 月 22 日(日)

特別展「MOCO コレクションオムニバス ― 初公開・久々の公開 ― PART 1」

当館は、旧安宅産業株式会社が収集した世界屈指の中国・韓国陶磁コレクションである、「安宅コレクション」965 件を住友グループから寄贈されたことを記念して、1982 年 11 月に開館しました。また、1996 年から 1998 年にかけて、李秉昌(イ・ビョンチャン)博士から韓国陶磁を中心とするコレクション 351 件の寄贈を受けました。実は、これらの核となるコレクション以外にも、開館以来 40 年余の間に、篤志家(とくしか)の方々から様々なコレクションが当館に寄贈され、収蔵品の質と量が拡充されてきました。本展では、ほとんどが初公開となる茶道具を中心とした「松惠(しょうけい)コレクション」や、久々の公開となる中国陶磁の酒器を中心とした「入江正信(いりえまさのぶ)コレクション」、中国陶磁を中心とした「白檮廬(はくとうろ)コレクション」、人物・動物・建物をかたどった墓に副葬する中国陶磁を中心とした「海野信義(うみののぶよし)コレクション」、韓国陶磁の魅力を日本に紹介した陶磁研究者の浅川伯教(あさかわのりたか)旧蔵作品や関連資料による「鈴木正男(すずきまさお)コレクション」を、オムニバス方式で紹介します。

2. 茶道総合資料館 【京都・京区】(https://www.urasenke.or.jp/textc/gallery/exhibition/)

令和 8 年 1 月 7 日(水)～4 月 12 日(日)

令和 8 年新春展: 芦屋・滴翠(てきすい)美術館の名品 ― 山口吉郎兵衛コレクション

兵庫県芦屋市にある滴翠美術館は、大阪財界で活躍した山口吉郎兵衛が収集した美術コレクション約 2,500 点を収蔵、公開している美術館です。旧山口銀行(合併により三和銀行、三菱 UFJ 銀行へ)の頭取として活躍した吉郎兵衛は、引退後に京焼などの茶道具やかるた、人形を熱心に研究し、約 20 年にわたって収集を行いました。吉郎兵衛の没後、昭和 43 年(1968)に夫人が住宅の一部を滴翠美術館として開放し、遺愛の美術コレクションを公開しました。本展覧会は、コレクションのうち、約 70 点の名品を京都の地にて紹介する初めての展覧会です。京焼をはじめ、関西の希少な茶陶、天正カルタなどの珍しいカルタ類など、滴翠美術館ならではの魅力溢れる作品をご紹介いたします。

3. 戸栗美術館 【東京・渋谷】(https://www.toguri-museum.or.jp/tenrankai/tenrankai_winter.php)

令和 8 年 1 月 8 日(木)～3 月 22 日(日)

2025 年冬季展覧会: 古伊万里いきもの図(ず)会(え)展

動物、鳥、龍、魚、虫など、伊万里焼には様々ないきものが登場します。選択されたモチーフは多岐に渡りますが、中国からの影響がうかがえたり、破邪招福の意味が込められていたり、当時の絵画や工芸品からの着想が垣間見られたりと、様々な見方でいきものを紐解くことができます。本展では館蔵の伊万里焼から、いきものを主題とした作品約 80 点を厳選。30 種類以上のモチーフを意味や逸話、伊万里焼における表現など様々な視点からご紹介いたします。なお、今展は江戸時代に成立した絵入り百科事典『和漢三才図会(わかんさんさいずえ)』(寺島良安 編 /1712 年 自序)を参考に、図鑑仕立ての展示構成としています。図鑑のページをめくるように、お好きないきものやお気に入りの作品からご鑑賞ください。